

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 富士宮市立山宮小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	学校実施：4年1組・25名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	福祉教育の入り口として、パラリンピックについて調べてきた。障がい者スポーツに携わる方から、普段の生活の様子や障がい者スポーツについての話を聞いたり、競技体験をしたりすることで、障がいについての理解を深め、自分たちにできることを考え、発信していく。

5 取組内容

(1学期)

○パラリンピック・パラリンピアンについて調べよう。

(動画・web・書籍)

- ・パラリンピックの発祥について。
- ・どのような種目があるのか。
- ・ルールについて。
- ・なぜ、競技を始めたのか。
- ・競技を続けて辛くないのか。

(2学期)

○障がいのある方とどのように暮らしていけるだろうか。

また、自分たちには何ができるだろうか。

(講話・体験)

- ・障がいのある方の生活で大変なことは何だろう。
- ・障がいのある方に話を聞いてみよう。

○調べたり、考えたりしたことを、発信しよう。

(インタビュー・web・書籍)

- ・「ときめき山宮発表会」で、校内の児童や保護者に向けて発信する。(プレゼンテーションソフトを用いて)

オリンピック・パラリンピックから学ぼう



障がい者スポーツを行っている方から話を聞いてみよう



世の中の障がい者に目を向けよう

個別の調べ学習 『私たちに何ができるだろう』

- ・手話 ・車いす ・点字
- ・盲導犬 ・点字ブロック
- ・視覚障がい ・聴覚障がい 等



学校の仲間や地域の方々に発信しよう



<p>6 主な成果</p>	<p>・子供たちの学習は、以前ならば、地域の施設を訪問してお年寄りと交流したり、施設の職員に講師になっていただいて話を聞いたりしてきた。今年は、パソコンで調べたり、学校図書館で調べたりすることが活動の中心となってしまう、生きた情報を欲していた。</p> <p>今回は、講師の方や社会福祉協議会の職員の皆さんに、本事業に協力するという趣旨で、感染対策に十分配慮してご協力いただいた。</p> <p>・実際に競技経験のある方からお話を聞いたので、子供たちが1学期から抱いていた、「体が不自由なのにどうしてスポーツに熱中できるのだろう」という疑問の答えを、講話や実際に車いすで体を動かす生き生きとした姿から学ぶことができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>地元富士宮で活躍されている方を取り上げた。講話のみで終わらせずに、車椅子操作やスポーツ体験とセットにしたことで、より子供に訴えるものがあったと思う。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今回は、講師選定にあたり、富士宮市社会福祉協議会の職員に仲介していただいた。また、当日も道具の貸し出しや講師の補助をお手伝いいただいた。それらを学校だけで準備するのは難しく、パラリンピアンが所属する団体や社会福祉協議会等の協力がなければ、内容を充実させることは難しい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>この事業が継続されれば活用したい。</p> <p>今年度は、パラリンピック実施の年で、講師選定や日程調整が難しかったが、来年度からはパラリンピアンの方々を招きやすくなると思う。</p>